

コンピュータ西暦 2000 年問題への対応状況について

平成 11 年 9 月 10 日

帝国石油株式会社

西暦 2000 年問題に関連して、本年 9 月 9 日をいわゆる「クリティカルデート」とする指摘が一部でなされています。このため当社では、エネルギーの安定供給確保の観点から、全社的なチェック体制のもと当日の業務にあたりましたところ、同日中にコンピュータの誤作動に基づく障害は発生しませんでした。その結果と今後の対応につき、以下のとおりご報告いたします。

1. 1999 年 9 月 9 日の業務について

当社では社内の各システムについて、いずれも 2000 年対応を完了し、模擬テスト実施の結果、問題のないことを確認しております。一方、本年 9 月 9 日におけるコンピュータの誤動作の発生可能性を指摘する報道等が一部でなされているため、当社では 2000 年 1 月 1 日に準ずるチェック・連絡体制のもと、同日の業務を行いました。その結果、コンピュータ及びマイクロコンピュータの誤作動に起因する障害は一切発生しませんでした。なお、問題のないことを確認した社内の各システムは以下の通りです。

- ・ 制御系各システム（天然ガス生産プラント、主要天然ガスパイプライン制御監視システム、石油製品関係操業システム）
- ・ 事務処理系各システム（経理、資材、労務、営業、生産統計）
- ・ 通信等その他の社内的インフラ

2. 今後の対応

当社では本年 9 月中に危機管理計画を策定すべく、現在全社的な組織である「コンピュータ 2000 年問題対応委員会」におきまして鋭意作業中であり、今後ともエネルギーの安定供給を確保すべく、充実した危機管理計画の策定に向け努力してゆく所存であります。

3. その他

西暦 2000 年問題への対応につきましては、今後とも本ホームページ等により、株主・取引先及び関係各位に対し開示してゆく予定です。

以上

※なお、このページは当社が西暦 2000 年問題に対して最善の努力を行っていることを説明するものでありますが、西暦 2000 年対応に関して、当社が、何らの保証、義務の発生、権利の放棄を表明するものではありません。